

加 佐

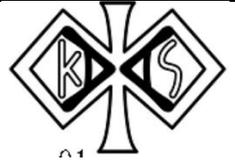
学校だより 10月号

令和6年10月1日

舞鶴市立加佐中学校

TEL 83-0004 FAX 83-3201

<https://kasa-maizuru.edumap.jp/>



和太鼓の響き



楽器演奏はまったくできませんが、太鼓はなんだか「体育的」な印象があって、取り入れてみたかったのです。今期の京都府事業「学校・アート・出会いプロジェクト」は、京丹波市（和知町）出身・在住の藤本吉利（ふじもとよしかず）さんを講師に招いて、体験・指導していただきます。藤本さんは、和太鼓集団「鼓童」の創設メンバーとして活躍された方。鼓童といえば、新潟県佐渡島を拠点に国内のみならず、海外公演・表彰が多数ある和太鼓演奏集団です。恐る恐る叩いていた生徒には、「上手に打たなきゃ…」とか「間違ったら…」と思わず「心が揺さぶられる感覚」を味わわせたい。藤本さんのワークショップは各学年に2回あります。さらに11月21日には、奈良県の和太鼓グループ「舞太鼓あすか組」さんの演奏会を予定しています。保護者様、地域の皆様も参観を歓迎します。あらためてご案内します。

加佐中学校に勤めるようになって、地域の太鼓が大切に維持・保存されていることを知り、「学校教育に取り入れられないか」と思い温めていました。「音楽」とか「伝統文化の継承」など、名義名目はひとまず置いておいて、何より「五感で音（振動）を感じとる」ことや、「全身を使って音をだす・リズムをとる」ことは、発育・発達に重要と考え、それはつまり「認知機能・学力・学習意欲」に効果がある！と信じています。（☑コレを裏付けられるように、大学の先生と研究を進めています。）

察しのお通り、太鼓は楽器の中でも歴史が古く、世界各地にそのルーツが確認されており、文明の発達とともに、種類や用途が多彩に、さらに演奏・演目が生れ、芸術として昇華します。加佐地域に残る太鼓には鬼伝説や、五穀豊穰、豊漁の祝い…等等。昔の人も太鼓の響きに神様の力を感じたのでしょうか。

「太鼓」で学校だよりを書こう！と思いつくと、記述内容に間違いがないか？様々な「調べ学習」をします。そうして「太鼓」からスタートした調べ学習は、大俣・地頭から大江山、さらに和知太鼓につながって。大きさや作り方で太鼓の名前が変わることを知ると製造メーカーをたどり、胴の材料であるケヤキが近年は手に入らなくなっていること。神事の広がりとともに楽器が発達したこと・・・等等。

2学期は各学年が「総合的な学習の時間」を進めます。指導者の立場では、「課題の設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」と学習の局面を区分するのですが、学習者の立場からすると、次々と新たな疑問が見つかり、「どうしようか？どうしようか？」と考えるあいだの「ドキドキ感・ワクワク感」が一番の面白さです。各教科の学習はそれぞれに。教科書の内容も網羅しつつ。テストの点数は…あった方がよいに越したことはありません。子どもの「面白い！」と、社会が求める「未来を切り開く力！」の両立は、職員室の「総合的な・・・」の大きなテーマです。

いじめアンケートの結果から

6月の生徒アンケートでは「困った・困っています」という回答が、0（ゼロ）件でした。例年は「悪口やかからかい、嫌なことを言われる」項目や、「仲間外れ、無視される」項目に数件の訴えがあるのですが「ゼロ件」の意味合いは「アンケートに答えるまでに解決した」、「イヤな気持ちになる前に相談できている」ということか、と捉えています。「いじめの未然防止」はもちろんですし「安心・安全な学校」に向けて相談体制を整えます。「仲間づくり・コミュニケーションの力」をつけるため、引き続き計画的な指導を行います。ご協力ください。

舞鶴市立加佐中学校 校長 阪口靖敬 教職員一同